

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・EU、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

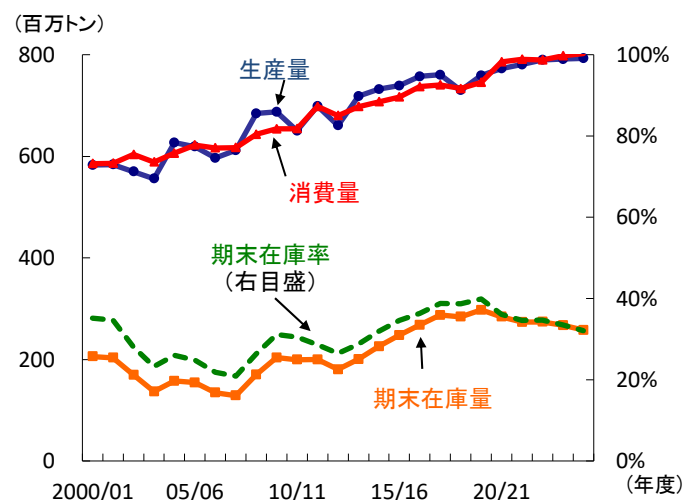
消費量 前年度比 前月比

- ・シリアで上方修正されたものの、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・米国、ウクライナで上方修正されたものの、ロシア、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



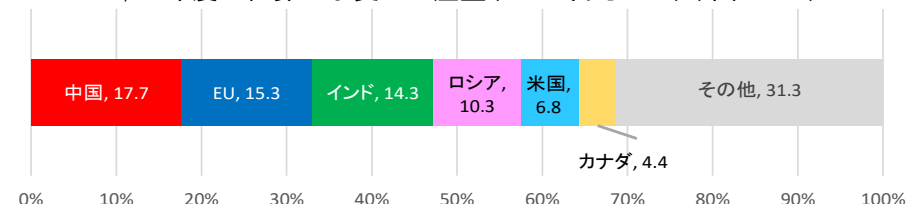
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

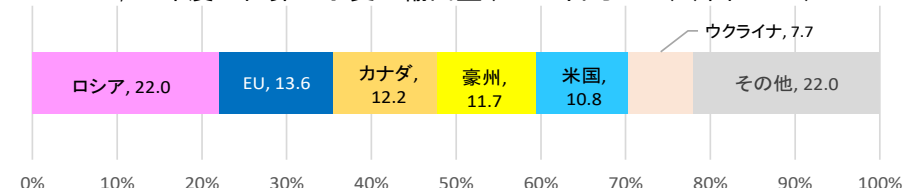
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.9	791.2	793.0	▲ 1.8	0.2
消費量	789.6	797.9	802.5	▲ 0.9	0.6
うち飼料用	152.8	159.1	152.6	▲ 0.3	▲ 4.1
輸出量	221.7	221.4	213.7	▲ 1.0	▲ 3.5
輸入量	213.3	221.9	209.6	▲ 0.5	▲ 5.6
期末在庫量	274.0	267.4	257.9	0.3	▲ 3.6
期末在庫率	34.7%	33.5%	32.1%	0.1	▲ 1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 December 2024)

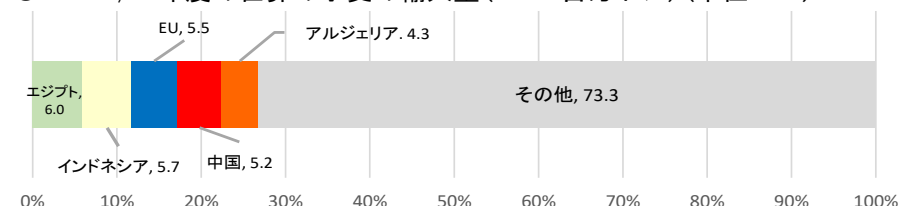
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(793.0百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(213.7百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(209.6百万トン) (単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から上方修正され 23.1 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング（HRS）が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Crop Progress」（2024.11.25）によれば、11 月 24 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 97%と前年同期 97%、過去 5 年平均 98%と同水準で作付けはほぼ終了している。出芽進捗率も 89%と前年同期 90%、過去 5 年平均 89%と同水準。また、作柄は「やや良～良」の割合が 55%と、前年同期 50%を上回っており、作付初期の乾燥により作柄が悪かったものが 11 月以降の降雨により改善している。

同「Wheat Outlook」（2024.12.12）によれば、12 月 3 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付地域の約 29%が干ばつとなっているものの、前月 11 月 5 日現在の約 57%からは大きく改善している。干ばつ地域の減少により冬小麦の作柄は大きく改善しており、「やや良～良」の割合は今年度最初の評価 10 月 27 日現在 38%から 11 月 24 日現在 55%と 17 ポイント増となっている。これは 1987 年以降で最大の改善となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、好調な輸出及びロシア産小麦の輸出鈍化による競合減少の期待から、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 23.1 百万トンと、増産による輸出余力の増大に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 20.2%増、過去 5 年平均（23.0 百万トン）と比べても 0.5%増と 4 年ぶりの高水準となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～10 月の輸出量は、973.9 万トンと前年同期（716.7 万トン）と比べ 35.9%増となっており、国別にはメキシコ 158.7 万トン（16.3%）、フィリピン 111.8 万トン（11.5%）、日本 101.3 万トン（10.4%）の順。2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げ等を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 21.6 百万トンなるものの、前年度と比べ 14.1%増となる見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

（単位：百万トン）					
年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25 予 測 値	24年6月～25年5月 前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.9	49.1	53.7	-	9.3
消 費 量	30.3	30.2	31.2	-	3.6
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	-	41.6
輸 出 量	20.7	19.2	23.1	0.7	20.2
輸 入 量	3.3	3.8	3.4	0.1	▲ 9.6
期末在庫量	15.5	19.0	21.6	▲ 0.5	14.1
期末在庫率	30.4%	38.4%	39.8%	▲ 1.5	1.4
（参考）					
収穫面積（百万ha）	14.36	15.01	15.57	-	3.7
単収（t/ha）	3.13	3.27	3.45	-	5.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」（10 December 2024）

図 小麦の主要輸出国における輸出量の推移

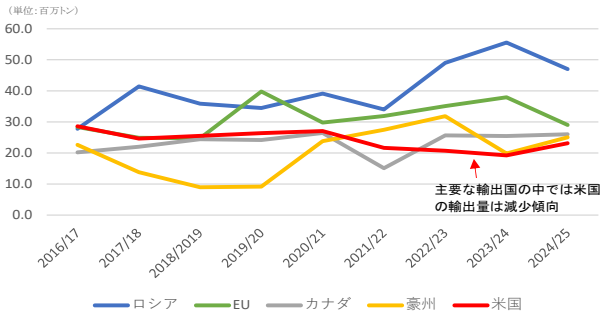


表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）					
2024/25年度 （2024年6月～10月）			2023/24年度 （2023年6月～2024年5月）		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	158.7	16.3	メキシコ	325.8	17.4
フィリピン	111.8	11.5	フィリピン	274.5	14.7
日本	101.3	10.4	中国	216.9	11.6
韓国	96.4	9.9	日本	197.1	10.5
台湾	47.8	4.9	韓国	130.1	6.9
ナイジェリア	36.0	3.7	台湾	110.5	5.9
その他	422.0	43.3	その他	618.1	33.0
計	973.9	100.0	計	1,873.0	100.0

2022/23年度 （2022年6月～2023年5月）		
国 名	輸出量	シェア
メキシコ	365.4	18.0
フィリピン	206.1	10.2
日本	204.1	10.1
韓国	147.2	7.3
中国	120.6	6.0
ナイジェリア	81.9	4.0
その他	901.7	44.5
計	2,027.0	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前月から上方修正され 35.0 百万トンの見込み（AAFC）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.12.19）によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 35.0 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度（32.9 百万トン）に比べ 6.1%増、過去 5 年平均（31.7 百万トン）と比べても 10.4%増となる見込み。

種類別には、普通小麦は 29.1 百万トンと、前年度（28.9 百万トン）に比べ 0.8%増、過去 5 年平均（26.8 百万トン）と比べても 8.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量になる見込み。デュラム小麦も 5.9 百万トンと、前年度（4.1 百万トン）に比べ 43.6%増、過去 5 年平均（4.9 百万トン）と比べても 19.8%増となる見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」（2024.12.5）によれば、2024/25 年度の実産量は、35.0 百万トンとなる見込み。このうちデュラム小麦は、前年度と比べ収穫面積及び単収が増加したことを受け 5.9 百万トン。普通小麦のうち春小麦は、前年度と比べ収穫面積は減少したものの、単収が増加したことから 26.1 百万トンと、前年度（25.5 百万トン）と比べ 2.2%増となる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 26.2 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）と比べ 3.2%増となる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 21.3 百万トンと、増産となるものの飼料用消費量が増加すること等から前年度（21.8 百万トン）に比べ 2.4%減となる見込み。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増大等を受け、前年度（3.6 百万トン）に比べ 37.7%増となる見込み。

カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～10 月の輸出量は、569.4 万トンと前年同期（594.3 万トン）と比べ 4.2%減。

種類別には、普通小麦が 477.7 万トンと前年同期（526.5 万トン）と比べ 9.3%減で、国別には日本 49.8 万トン（10.4%）、インドネシア 46.1 万トン（9.7%）、ペルー35.0 万トン（7.3%）の順。デュラム小麦は 91.7 万トンと前年同期（67.8 万トン）と比べ 35.4%増で、国別にはイタリア 26.4 万トン（28.7%）、モロッコ 22.8 万トン（24.9%）、米国 9.9 万トン（10.8%）の順。

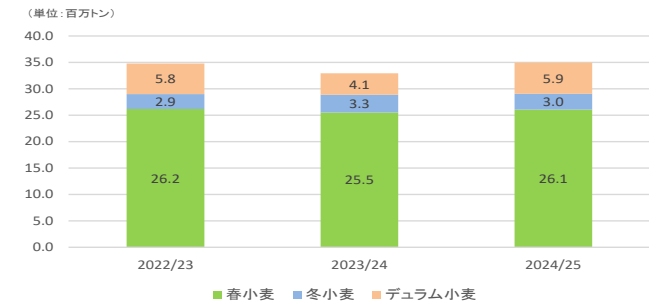
AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量及び消費量の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 4.5 百万トンと、前年度と比べ 3.6%減となる見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)			
			予測値、() はAAFC		前月予測 からの変更	
			対前年度 増減率(%)			
生 産 量	34.8	33.0	35.0	(35.0)	▲ 0.04	6.1
消 費 量	8.3	9.2	9.6	(9.1)	-	4.7
うち飼料用	3.2	4.1	4.5	(4.7)	-	10.6
輸 出 量	25.6	25.4	26.0	(26.2)	-	2.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6	(0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.5	4.4	(4.5)	▲ 0.1	▲ 2.2
期末在庫率	16.6%	13.1%	12.4%	(12.6%)	▲ 0.3	▲ 0.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.65	(10.65)	0.05	▲ 0.5
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.28	(3.28)	▲ 0.02	6.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 December 2024)

図 カナダ産小麦の種類別生産量の推移



資料：カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦						(輸出量：万トン)					
2024/25年度 (2024年8月～10月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)					
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
日本	49.8	10.4%	中国	310.3	14.7%	中国	296.8	15.1%			
インドネシア	46.1	9.7%	インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8	10.9%			
ペルー	35.0	7.3%	日本	173.9	8.2%	日本	167.3	8.5%			
コロンビア	28.6	6.0%	バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3	7.5%			
エクアドル	26.9	5.6%	ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4	7.3%			
その他	291.4	61.0%	その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1	50.7%			
計	477.7	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6	100.0%			

○デュラム小麦						(輸出量：万トン)					
2024/25年度 (2024年8月～10月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)					
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
イタリア	26.4	28.7%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0	23.8%			
モロッコ	22.8	24.9%	モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8	23.8%			
米国	9.9	10.8%	米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7	16.9%			
アルジェリア	8.4	9.2%	イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4	9.9%			
日本	6.7	7.3%	日本	21.2	6.2%	チュニジア	32.5	6.4%			
その他	17.6	19.2%	その他	60.4	17.6%	その他	96.8	19.1%			
計	91.7	100.0%	計	343.5	100.0%	計	507.3	100.0%			

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の生産量は前回予測から上方修正され 31.9 百万トンの見込み (ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」 (2024.12.3) によれば、2024/25 年度の実生産量は前回予測 (2024.9.3) から 6 万トン上方修正され 31.9 百万トンと、前年度 (26.0 百万トン) と比べ 22.8%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 6.9%増となる見込み。

州別の生産量は、ニューサウスウェールズ州 (NSW 州) が 12.4 百万トン (前年度比 74.8%増)、クイーンズランド州 (QLD 州) が 2.2 百万トン (同 106.5%増) とシーズンを通して十分な降雨に恵まれたことから前年度に比べ大きく増加する見込み。また、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州) についても 10.8 百万トン (同 39.6%増) と生育後期の降雨により前年度から増加する見込み。一方、サウスオーストラリア州 (SA 州) は 3.0 百万トン (同 37.5%減)、ビクトリア州 (VIC 州) も 3.5 百万トン (33.7%減) とシーズンを通して降水量が少なかったことや 9 月に霜が降りた影響等により前年度から減少する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく 32.0 百万トンと、エルニーニョ現象により降雨不足で土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加することから、前年度と比べ 23.3%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 7.3%増となる見込み。

現地情報会社の情報によれば、12 月 5 日現在、2024/25 年度の実小麦の収穫進捗率は、11 月は豪州全体で平年に比べ降水量が多かったことから収穫作業に遅れが生じ 76%となっている。また、WA 州では降水量が多かったことによる品質低下の懸念がある。

【貿易情報・その他】ABARES (2024.12.3) によれば、2024/25 年度の実輸出量は前回予測から 16 万トン上方修正され 21.9 百万トンと、前年度 (19.8 百万トン) と比べ 11.0%増となるものの、過去 5 年平均 (22.4 百万トン) と比べると 1.9%減となる見込み。

2024/25 年度の実輸出量のうち、2024 年 10 月の実輸出量は 115.7 万トンと、輸出余力の減少を受け前年同期 (141.1 万トン) に比べ 18.0%減少している。国別には、インドネシア 27.2 万トン (23.5%)、フィリピン 23.1 万トン (20.0%)、韓国 14.3 万トン (12.4%) の順となっている。

2024/25 年度の期末在庫量は輸出量の上方修正等を受け前回予測から 7.2 万トン下方修正され 4.0 百万トンとなるものの、前年度 (2.8 百万トン) に比べ 43.8%増となる見込み。

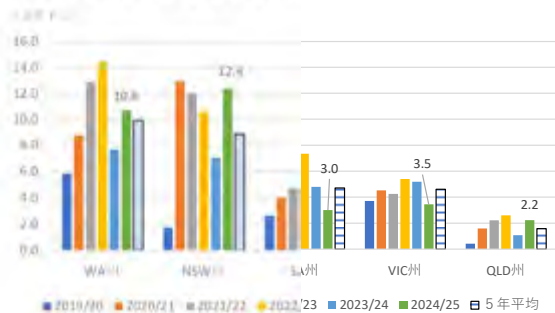
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 2.6 百万トンと、輸出量の増加等を受け前年度に比べ 10.4%減となる見込み。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	40.6	26.0	32.0 (31.9)	-	23.3	
消 費 量	8.0	7.8	7.5 (8.7)	-	▲ 3.8	
うち飼料用	4.5	4.3	4.0 ...	-	▲ 7.0	
輸 出 量	31.8	19.9	25.0 (21.9)	-	25.8	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 ...	-	▲ 9.1	
期末在庫量	4.4	2.9	2.6 (4.0)	▲ 0.2	▲ 10.4	
期末在庫率	11.0%	10.4%	7.9% (13.2%)	▲ 0.5	▲ 2.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	13.05	12.37	13.00 (13.06)	-	5.1	
単収(t/ha)	3.11	2.10	2.46 (2.44)	-	17.1	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
ABARES 「Australian Crop Report」(3 December 2024)

図 豪州の実小麦の州別生産量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2024.12.3) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の実輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年10月)		2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)		2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)	
国 名	輸出量	国 名	輸出量	国 名	輸出量
インドネシア	27.2	中国	375.5	中国	759.2
フィリピン	23.1	インドネシア	323.5	インドネシア	502.9
韓国	14.3	フィリピン	233.6	フィリピン	307.6
ベトナム	12.0	イエメン	152.2	ベトナム	285.5
日本	6.7	日本	120.6	韓国	270.0
イエメン	5.0	韓国	119.4	タイ	199.2
その他	27.2	その他	641.6	その他	855.7
計	115.7	計	1,966.4	計	3,180.0

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 119.5 百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2024.11.28) によれば、2024/25 年度
の生産量は、収穫面積及び単収の引下げを受け、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 119.5 百万トンとなる
見込み。2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫
面積及び単収が減少することを受け、前年度 (132.6 百万トン) に比べ 9.9%減、過去 5 年平均 (133.4 百万ト
ン) と比べても 10.4%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 112.3
百万トンと、前年度比 10.3%減、過去 5 年平均比でも 10.8%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多
等を受け前年度比 27.2%減の 25.4 百万トン、ドイツも同 13.8%減の 18.2 百万トンとなる見込み。デュラム
小麦は前月予測からわずかに下方修正され 7.2 百万トンと、前年度比 2.9%減、過去 5 年平均比でも 4.5%減
となる見込み。国別にはイタリアが同 5.1%減の 3.5 百万トン、フランスも同 6.5%減の 1.2 百万トンとなる一
方、スペインが干ばつからの回復により前年度比 61.4%増の 0.7 百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 1.3 百万トン下
方修正され 121.3 百万トンと、前年度と比べ 10.2%減、過去 5 年平均 (134.7 百万トン) と比べても 10.0%減
となる見込み。同「World Agricultural Production」(2024.12.10) によれば、EU の生産量の下方修正は主に
ベルギー、スウェーデン、デンマーク、オランダ、イタリアの実生産量減少によるもので、2012/13 年度以来最
低の実生産量になる見込み。

【貿易情報・その他】EC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 25.7 百万トンと、
減産を受け前年度 (36.4 百万トン) に比べ 29.3%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～9 月の
輸出量は、774.4 万トンと、前年同期 (910.7 万トン) と比べ 15.0%減。種類別には、普通小麦が 753.4 万ト
ンと、前年度と比べ 16.4%減となる一方、デュラム小麦が 21.0 万トンと、同 117.7%増。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 10.0 百万トンと、ウクライナの減産で同国からの輸
入が減少すること等から前年度 (12.1 百万トン) と比べ 17.2%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年
7 月～9 月の輸入量は、256.7 万トンと、前年同期 (290.2 万トン) と比べ 11.5%減。種類別には、普通小麦
が 224.6 万トンと、前年度と比べ 6.9%増となる一方、デュラム小麦が 32.1 万トンと、同 59.9%減。

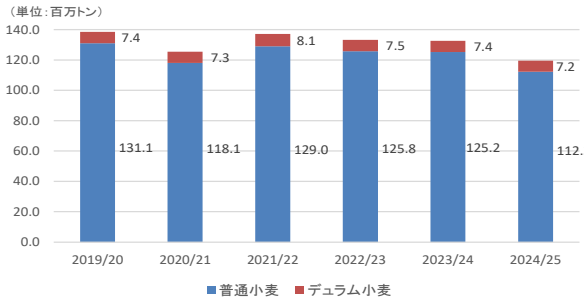
2024/25 年度の期末在庫量は、減産等を受け前月予測から 0.6 百万トン下方修正され 11.1 百万トンと、供給
量の減少から前年度 (17.9 百万トン) と比べ 38.2%減となる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			2024/25 (24年7月～25年6月)		対前年度 増減率(%)	
			予測値、() はEC	前月予測 からの変更		
生産量	134.5	135.1	121.3 (119.5)	▲ 1.3	▲ 10.2	
消費量	109.0	110.5	108.8 (110.6)	-	▲ 1.6	
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (45.8)	-	▲ 4.3	
輸出量	35.1	38.0	29.0 (25.7)	▲ 1.0	▲ 23.6	
輸入量	12.2	12.6	11.5 (10.0)	-	▲ 8.9	
期末在庫量	16.2	15.5	10.6 (11.1)	0.5	▲ 31.9	
期末在庫率	11.3%	10.4%	7.7% (8.1%)	0.4	▲ 2.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.44	24.34	22.83 (22.41)	▲ 0.07	▲ 6.2	
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.31 (5.33)	▲ 0.04	▲ 4.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(28 November 2024)

図 EU27 の小麦生産量の推移



資料：EC 「EU cereals production , area and yield」(2024.11.28)
をもとに農林水産省で作成

表 EU27 の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量					O輸入量				
国名	2024/25年度 (2024年7月～9月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		国名	2024/25年度 (2024年7月～9月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
エジプト	94.0	12.1	178.5	4.9	ウクライナ	147.6	57.5	647.3	53.6
ナイジェリア	90.7	11.7	348.9	9.6	カナダ	30.1	11.7	138.5	11.5
アルジェリア	88.2	11.4	393.7	10.8	モルドバ	21.9	8.5	73.6	6.1
モロッコ	58.4	7.5	489.1	13.4	トルコ	15.8	6.2	76.8	6.4
英国	45.5	5.9	140.1	3.9	米国	14.8	5.8	34.2	2.8
サウジアラビア	33.1	4.3	155.4	4.3	セルビア	11.1	4.3	35.5	2.9
その他	364.6	47.1	1,931.1	53.1	その他	15.5	6.0	202.8	16.8
合計	774.4	100.0	3,636.7	100.0	合計	256.7	100.0	1,208.7	100.0

資料：EC 「EU trade for cereals」(2024.11.28)をもとに農林水産
省で作成

＜ ロシア ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 47.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更なく 81.5 百万トンと、前年度と比べ 10.9%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.4%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 57.5 百万トンと、5 月の霜害とそれに続く高温乾燥により前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦が 24.0 百万トンと、霜害と高温乾燥により前年度（27.5 百万トン）に比べ 12.7%減となる見込み。

ロシア農業省によれば、11 月 29 日現在、2024/25 年度の小麦（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は 98%で 8,457 万トンが収穫されている。ロシア気象センターによれば、11 月末現在、冬小麦を含む 2025/26 年度の秋播き作物は、アジア部（ウラル連邦管区及びシベリア連邦管区）では、分けつ期の段階で越冬に入っており、作柄は概ね良好となっている。一方、ヨーロッパ部北部（北西連邦管区、中央連邦管区及び沿ヴォルガ連邦管区）では、乾燥の影響により出芽が遅れたことから、冬小麦の半分以上が出芽期の段階で越冬を迎えており、枯死等が懸念される。なお、11 月 25 日現在の 2025/26 年度の秋播き作物の作柄は、良好～非常に良好が 32%、平年並みが 32%、不良が 36%と、越冬前の作柄としては観測史上最も悪い状態であった。

【貿易情報・その他】ロシア連邦政府は、12 月 20 日、2025 年 2 月 15 日から 6 月 30 日に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。当該枠外の輸出については、50%（ただし最低の輸出関税は 100 ユーロ/トン）の輸出関税が課されることとなる。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、ロシアにおける年度後半の輸出枠数量の設定を受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 47.0 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度に比べ 15.3%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）に比べれば 10.8%増となる見込み。

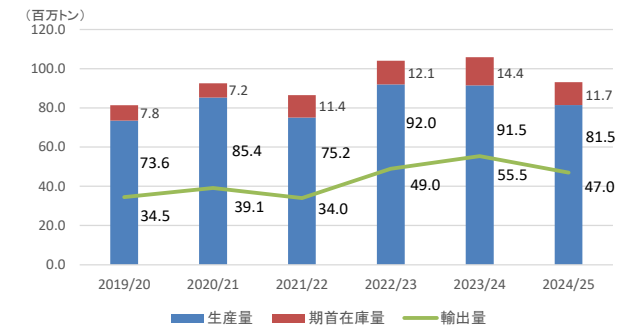
現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～11 月の輸出量は 2,471.7 万トンと、前年同期（2,329.1 万トン）と比べ 6.1%増となっている。国別には、エジプト 472.5 万トン（19.1%）、トルコ 174.5 万トン（7.1%）、アルジェリア 166.3 万トン（6.7%）の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 8.2 百万トンとなるものの、前年度に比べ 29.5%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			(単位: 百万トン)			
			予測値、() は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生 産 量	92.0	91.5	81.5 (81.8)	-	▲ 10.9	
消 費 量	41.0	39.0	38.3 (39.0)	-	▲ 1.9	
うち飼料用	18.0	16.0	15.5 (16.0)	-	▲ 3.1	
輸 出 量	49.0	55.5	47.0 (44.2)	▲ 1.0	▲ 15.3	
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-	
期末在庫量	14.4	11.7	8.2 (9.5)	1.0	▲ 29.5	
期末在庫率	16.0%	12.4%	9.7% (11.4%)	1.27	▲ 2.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (27.73)	-	▲ 2.9	
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.91 (2.95)	-	▲ 8.2	
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、						
「World Agricultural Production」(10 December 2024)						
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)						

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024. 12. 10)をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年11月)				2024/25年度 (2024年7月～11月)				2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			
国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア	
エジプト	64.6	14.7		エジプト	472.5	19.1		エジプト	868.3	16.0	
バングラデシュ	47.2	10.7		トルコ	174.5	7.1		トルコ	691.9	12.8	
ナイジェリア	35.2	8.0		アルジェリア	166.3	6.7		バングラデシュ	350.2	6.5	
モロッコ	31.2	7.1		バングラデシュ	164.3	6.6		アルジェリア	236.8	4.4	
トルコ	26.7	6.1		ケニア	114.2	4.6		サウジアラビア	224.8	4.2	
イスラエル	20.2	4.6		ナイジェリア	101.7	4.1		カザフスタン	222.2	4.1	
ケニア	19.0	4.3		モロッコ	87.2	3.5		パキスタン	213.0	3.9	
その他	196.1	44.5		その他	1,191.0	48.2		その他	2,602.8	48.1	
計	440.2	100.0		計	2,471.7	100.0		計	5,410.0	100.0	

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から上方修正され 16.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、前月予測からの変更はなく22.9百万トンと、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11月29日現在、2024/25年度の実産量は2,239万トンとなっており、収穫は完了している。また、12月2日現在、2025/26年度の冬小麦の作付進捗率は98%と、前年同期96%を上回っており、作付けはほぼ完了している。現地情報会社の11月末時点の情報によれば、冬小麦を含む秋播き作物は最南部の一部地域を除く大部分で越冬状態に入ったとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、好調な輸出を受け前月予測から0.5百万トン上方修正され16.5百万トンとなるものの、供給量の減少等により前年度と比べ11.2%減、ロシアのウクライナ侵攻前の5年平均（18.1百万トン）と比べても8.8%減となる見込み。

現地情報会社によれば、9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

また、ウクライナ政府は12月1日から輸出許可制度を廃止し、輸出安全保障制度を導入した。当該制度では、最低輸出価格の設定、付加価値税の納税者のみの輸出、輸出業者の管理のため銀行及び税務当局との間での電子データ情報の交換が定められている。

2024/25年度のうち2024年7月～11月の輸出量は906.5万トンと、前年同期（591.2万トン）と比べ53.3%増となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し本年度5か月で56.0%を輸出している。国別にはスペイン220.9万トン（24.4%）、インドネシア154.8万トン（17.1%）、ベトナム81.4万トン（9.0%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、輸出量の引上げ等を受け前月予測から0.2百万トン下方修正され0.8百万トンと、前年度に比べ11.3%増となるものの、昨年度に次ぐ低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	21.5	23.0	22.9 (25.4)	-	▲ 0.4	
消 費 量	7.8	6.7	6.4 (9.4)	▲ 0.3	▲ 4.5	
うち飼料用	3.0	2.0	1.7 (1.4)	▲ 0.3	▲ 15.0	
輸 出 量	17.1	18.6	16.5 (16.2)	0.5	▲ 11.2	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3	
期末在庫量	2.9	0.7	0.8 (0.7)	▲ 0.2	11.3	
期末在庫率	11.8%	2.8%	3.4% (2.6%)	▲ 0.9	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8	
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.40 (4.11)	-	▲ 4.1	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

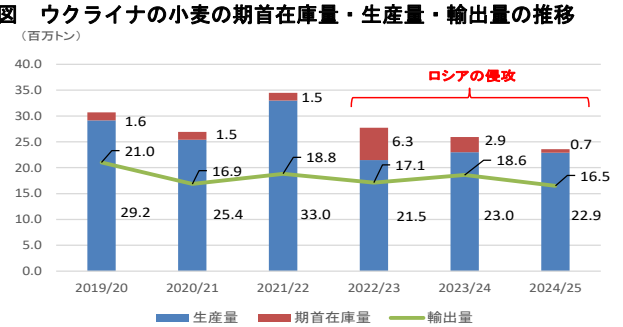


表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年11月)			2024/25年度 (2024年7月～11月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	36.5	27.5	スペイン	220.9	24.4	スペイン	589.9	32.0
インドネシア	23.6	17.8	インドネシア	154.8	17.1	エジプト	172.1	9.4
バングラデシュ	22.6	17.1	ベトナム	81.4	9.0	インドネシア	151.5	8.2
ベトナム	11.4	8.6	エジプト	66.4	7.3	トルコ	107.8	5.9
チュニジア	8.5	6.4	タイ	63.7	7.0	ルーマニア	100.1	5.4
アルジェリア	7.1	5.4	アルジェリア	52.6	5.8	パキスタン	81.4	4.4
タイ	6.5	4.9	バングラデシュ	46.7	5.2	ベトナム	75.1	4.1
アラブ首長国連邦	4.2	3.2	イタリア	32.6	3.6	バングラデシュ	73.7	4.0
イタリア	3.3	2.5	チュニジア	31.5	3.5	イタリア	67.7	3.7
ギリシャ	1.4	1.1	イエメン	28.6	3.2	アルジェリア	63.3	3.4
その他	7.5	5.7	その他	127.4	14.1	その他	358.0	19.5
合計	132.5	100.0	合計	906.5	100.0	合計	1,840.6	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 11.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024/25 年度の小麦の作付面積は 23.59 百万ヘクタールと、前年度（23.63 百万ヘクタール）に比べ 0.2%減となるものの、単収は 5.94 トン/ヘクタールと、前年度（5.78 トン/ヘクタール）と比べ 2.7%増となり、生産量も 140.1 百万トンと、前年度（136.6 百万トン）と比べ 2.6%増。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2024 年 10 月号」によれば、主要生産地において、2025/26 年度の冬小麦の作付けが着実に進展しており、10 月 24 日現在、作付予定面積の 61.5%、約 14 百万ヘクタールの作付けが完了している。10 月以降、北部の大部分の地域では晴れの日が多く、気温も平年に比べ 1～3℃高く、土壌水分も適切であったことから、冬小麦の作付けと出芽に有利な気象条件であった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均（146.1 百万トン）と比べれば 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 11.0 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和したことから、前年度に比べ 19.4%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～10 月までの輸入量は 167.9 万トンと、増産を受け前年同期（281.8 万トン）に比べ 40.4%減となっている。国別には、カナダ 56.8 万トン（33.9%）、米国 45.9 万トン（27.4%）、ロシア 22.0 万トン（13.1%）の順となっており、豪州が 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 51.4%から 11.7%と大きくシェアを減らしている一方で、米国及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

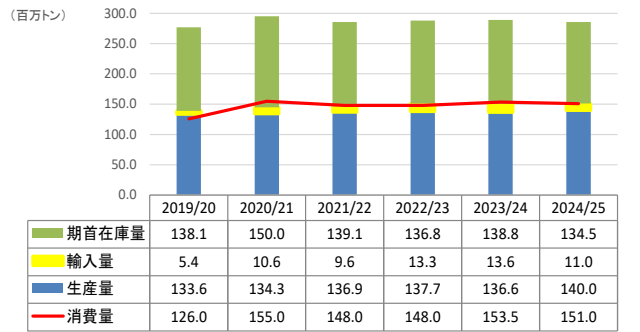
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 133.5 百万トンと、前年度に比べ 0.7%減となる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予 測 値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.7	136.6	140.0 (140.0)	-	2.5
消 費 量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲ 1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲ 3.8
輸 入 量	13.3	13.6	11.0 (10.2)	▲ 0.5	▲ 19.4
期末在庫量	138.8	134.5	133.5 (142.4)	▲ 0.5	▲ 0.7
期末在庫率	93.2%	87.0%	87.8% (96.2%)	▲ 0.3	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70 (23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91 (5.92)	-	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

国 名	2024/25年度 (2024年7月～10月)		2023/24年度 (2023年7月～10月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
カナダ	56.8	33.9	67.3	23.9	307.8	23.0
米国	45.9	27.4	22.7	8.1	181.8	13.6
ロシア	22.0	13.1	15.0	5.3	43.0	3.2
カザフスタン	21.4	12.7	30.3	10.8	66.8	5.0
豪州	19.6	11.7	144.8	51.4	503.5	37.7
日本	1.5	0.9	1.1	0.4	3.3	0.2
フランス	0.5	0.3	0.2	0.1	230.1	17.2
その他	0.1	0.1	0.2	0.1	0.6	0.0
計	167.9	100.0	281.8	100.0	1,336.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ウクライナ等で上方修正されたものの、EU、メキシコ、インドネシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

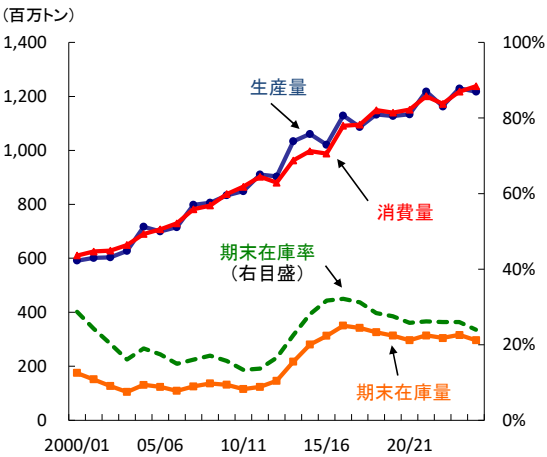
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ブラジル、米国、バングラデシュ、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU で下方修正されたものの、米国、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省にて作成。

◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

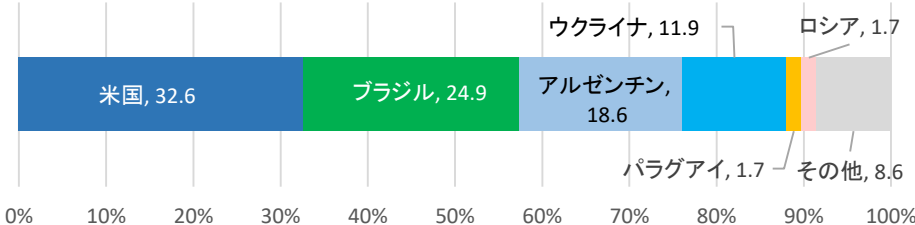
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,163.4	1,229.6	1,217.9	▲ 1.5	▲ 1.0
消 費 量	1,172.8	1,218.1	1,237.7	8.2	1.6
うち飼料用	735.5	772.8	779.4	2.9	0.9
輸 出 量	180.3	193.0	193.0	3.2	0.01
輸 入 量	173.4	197.1	183.9	0.5	▲ 6.7
期末在庫量	304.7	316.2	296.4	▲ 7.7	▲ 6.3
期末在庫率	26.0%	26.0%	24.0%	▲ 0.8	▲ 2.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2024)

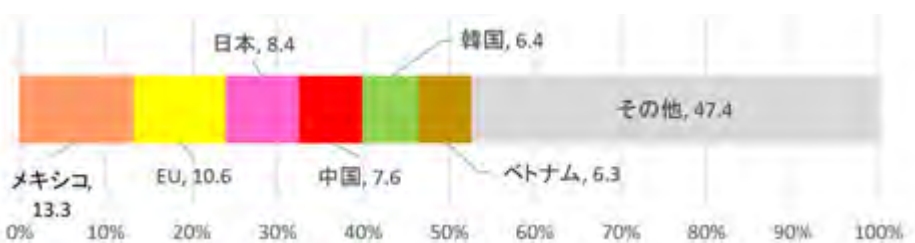
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,217.9 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量(193.0 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.9 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は史上最高の前年度から 1.3%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少（対前年度比 4.4%減）を受け、史上最高の前年度より 1.3%減の 384.6 百万トンとなったものの、史上 3 番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、エタノール用消費等の増加を受けて、前月予測から 1.3 百万トン上方修正され、前年度に比べ 0.3%増の 323.0 百万トンの見通し。

米国のエタノール輸出は、エタノールの原料となるととうもろこしの国内消費に重要な役割を果たしている。2023 年のエタノール輸出に占める米国のシェアは 47.3%と世界第 1 位であり、カナダ、ブラジル、インド等向けに輸出している。2023/24 年度のエタノール輸出量は、前年度比 43%増の 1.75 億ガロンと史上最高となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、直近の順調な輸出ペースを受けて前月予測から 3.8 百万トン上方修正され、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より 8.0%増の 62.9 百万トンの見込み。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2024.12.10) によれば、米国産の輸出価格は、12 月 4 日現在、新穀の豊富な供給量を受けて前月から 5 ドル/トン下落し、205 ドル/トンと、ブラジル産 (217 ドル/トン)、アルゼンチン産 (207 ドル/トン) を下回り、価格競争力を有している。なお、2024 年 9 ～ 11 月の輸出量は 1,107.0 万トンと、2023/24 年度の豊作を受けて前年同期の 835.3 万トンより 33%増。主な輸出先は、メキシコ 519.8 万トン（国別シェア 47.0%）、コロンビア 189.6 万トン（同 17.1%）、日本 143.6 万トン（同 13.0%）の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量と輸出量の引上げを受けて、前月予測から 5.1 百万トン下方修正され、前年度より 1.3%減の 44.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 1.5 ポイント減少し 11.4%と、過去 5 年平均（10.7%）を上回っている。

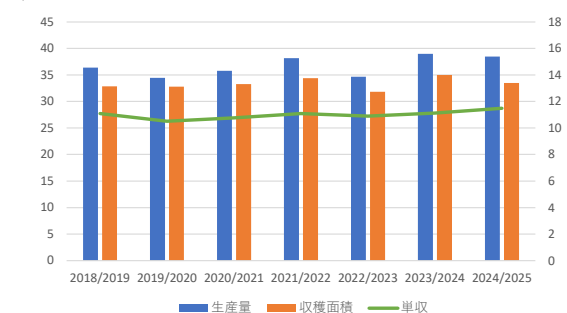
とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予 測 値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	346.7	389.7	384.6	-	▲ 1.3
消 費 量	305.9	322.0	323.0	1.3	0.3
うち飼料用	139.4	147.5	148.0	-	0.3
エタノール用等	131.5	139.1	139.7	1.3	0.4
輸 出 量	42.2	58.2	62.9	3.8	8.0
輸 入 量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.7	44.2	▲ 5.1	▲ 1.3
期末在庫率	9.9%	11.8%	11.4%	▲ 1.5	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.47	-	▲ 4.4
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.49	-	3.2

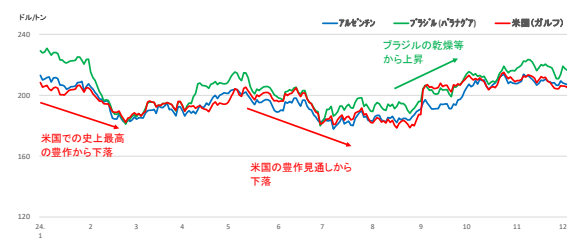
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)

図 1 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(千万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

図 2 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし
輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.12.12）によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 3.4%増の 119.6 百万トンの見込み。現在作付けが進められている夏とうもろこし（ブラジルのクロップカレンダー（図 2）参照）は、生産コストの増加による大豆等の他作物への作付けのシフトによる作付面積の減少等を受けて、前年度比 1.5%減の 22.6 百万トンの見込み。12 月 1 日現在、作付進捗率は 65%と、前年同期（60%）を上回っている。一方、1 月以降に作付けが開始される冬とうもろこしは、単収の増加等を受け、前年度比 4.6%増の 97.0 百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.12.10）によれば、12 月上旬、夏とうもろこしの主要生産地である南部において降雨があり、生育に好影響を与えたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、生産施設への投資によるエタノールの増産見通しを受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度から 1.8%増の 85.5 百万トンと史上最高の見込み。とうもろこしの主要生産州のマットグロッソ州等でとうもろこし原料のエタノール工場が新設されており、ブラジルにおけるエタノールの主原料のさとうきびが価格高騰により製糖に向けられているため、とうもろこし原料のエタノール用消費量が増加しているとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 15.7%増の 48.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、直近の貿易データに基づき前月予測から 2.5 百万トン下方修正され、史上最高の豊作となった 2022/23 年度より 23.6%減の 41.5 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 35.5 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 29%減。内訳は、エジプト 4.4 百万トン（国別シェア 12.5%）、ベトナム 4.1 百万トン（同 11.5%）、イラン 3.5 百万トン（同 9.9%）の順。

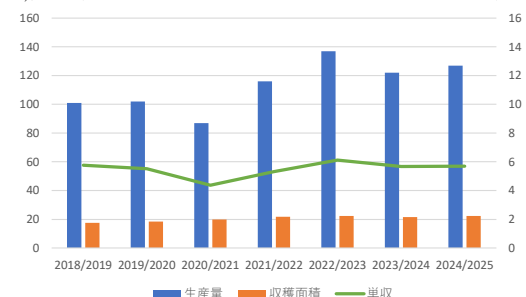
とうもろこしーブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	137.0	122.0	127.0 (119.6)	-	4.1	
消費量	78.0	84.0	85.5 (87.0)	2.0	1.8	
うち飼料用	61.5	63.5	64.0	1.0	0.8	
輸 出 量	54.3	41.5	48.0 (34.0)	-	15.7	
輸 入 量	1.3	1.3	1.5 (1.9)	-	15.4	
期末在庫量	10.0	7.8	2.8 (4.9)	-	▲ 63.8	
期末在庫率	7.6%	6.2%	2.1% (4.1%)	▲ 0.03	▲ 4.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30 (20.98)	-	3.7	
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.70)	-	0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
CONAB「Graos」(12 December 2024)

図 1 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」（2024.12.10）をもとに農林水産省にて作成

図 2 ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）

2024/25 年度の夏とうもろこしの作付けは、2024 年 9 月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025 年 1 月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25 年度	2024 年				2025 年				
	9	10	11	12	1	2	3	4	5
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 3.7(百万ha)				収穫 22.6(百万t)				
冬とうもろこし (マット・グロッソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.0 百万 ha				作付 17.2(百万ha)				
大豆 (マット・グロッソ州、 パラナ州等)	作付 47.4(百万ha)				収穫 166.2(百万t)				

資料：CONAB「Graos」（2024.12.12）をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均（49.7 百万トン）より 2.6%増の 51.0 百万トンの見込み。病虫害のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が平年並み（凶作年を除く過去 10 年平均 7.94 トン/ヘクタール）に増加すると見込まれることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.12.10) によれば、12 月上旬、降雨があり、出芽に好影響を与えているとみられる。アルゼンチン政府によれば、12 月 5 日現在、作付進捗率は 60%と、前年同期（54%）より進んでいる。

USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 35.1%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.9%増の 16.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 9.1%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～10 月の輸出量は 3,019.7 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（2,181.0 万トン）比で 38%増となった。内訳は、ベトナム 603.5 万トン（国別シェア 20.0%）、ペルー 350.7 万トン（同 11.6%）、マレーシア 279.8 万トン（同 9.3%）の順。

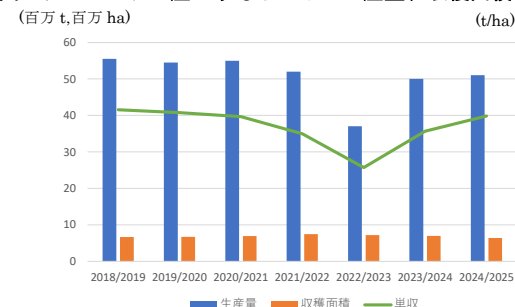
昨年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の 1 ドル＝350 ペソから 1 ドル＝800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	37.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0
消 費 量	14.2	15.3	16.3 (20.5)	-	6.9
うち飼料用	10.0	11.0	12.0 (15.4)	-	9.1
輸 出 量	25.2	33.0	36.0 (35.0)	-	9.1
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	2.3	4.1	2.8 (1.6)	-	▲ 31.8
期末在庫率	5.9%	8.5%	5.3% (2.9%)	-	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.00	6.40 (7.50)	-	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.14	7.14	7.97 (7.20)	-	11.6

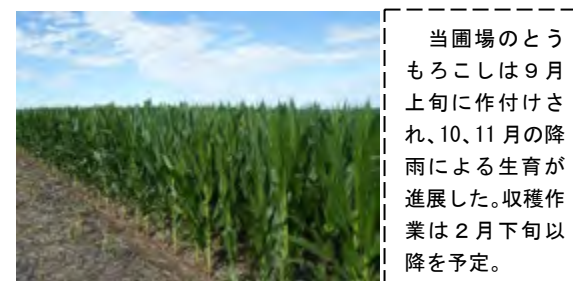
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州のとうもろこしの圃場風景
(2024 年 11 月 30 日撮影)



当圃場のとうもろこしは 9 月上旬に作付けされ、10、11 月の降雨による生育が進展した。収穫作業は 2 月下旬以降を予定。

撮影者：José Daniel Peloni

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 18.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績に基づく単収の引上げを受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、前年度より 18.5%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.1%減の 26.5 百万トンとなる見通し。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 16.5%減）することにより、減産となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 28 日現在、収穫進捗率は 96%と、前年同期（85%）より進んでいる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、生産量の引上げにより前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度より 4.7%増の 4.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産を受け、前年度より 22.0%減の 23.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 8.7%増の 29.5 百万トンの見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10～11 月の輸出量は 447.0 万トンと、前年同期（349.3 万トン）より 28.0%増。輸出先国は、トルコ 108.8 万トン（24.3%）、スペイン 85.1 万トン（19.0%）、イタリア 81.8 万トン（18.3%）の順。輸出手段別では、港湾経由が 423.1 万トン（シェア 94.7%）、鉄道経由が 26.2 万トン（同 5.9%）と港湾経由が主な輸送手段となっている。鉄道輸送については、ウクライナと EU で鉄道の軌間が異なることが輸送のネックとなっているとみられる。

報道情報（2024.12）によれば、ウクライナ鉄道は、2027 年までに、欧州の国際輸送に繋がる一部区画で EU の標準軌となる鉄道の敷設事業を実施する予定。また、ポーランドは、2026 年までに主要港湾のグダンスク港に大規模穀物ターミナルを建設する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からわずかに上方修正されたものの、減産による供給減から前年度より 59.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 74.7%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.3 ポイント減の 2.3%と、2000/01 年度以降で最低の水準となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月) 予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.0	32.5	26.5 (26.0)	0.3	▲ 18.5
消 費 量	4.9	4.3	4.5 (4.7)	0.4	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.5 (3.3)	0.4	▲ 6.1
輸 出 量	27.1	29.5	23.0 (21.6)	-	▲ 22.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	100.0
期末在庫量	2.8	1.6	0.6 (0.7)	0.01	▲ 59.2
期末在庫率	8.7%	4.7%	2.3% (2.6%)	0.002	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.00)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.46 (6.50)	0.07	▲ 16.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)

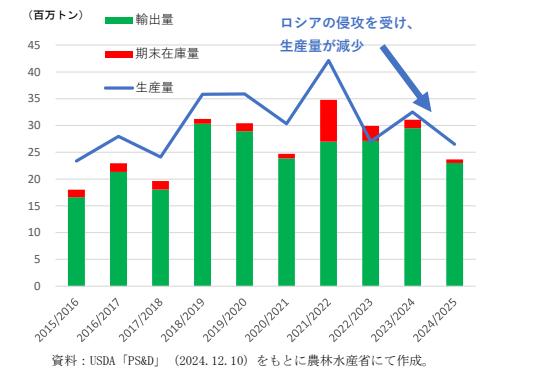


表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

2024/25年度 (2024年10月～11月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年 9月)			2022/23年度 (2022年10月～2023年 9月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
トルコ	108.8	24.3	スペイン	617.4	21.0	中国	563.3	20.7
スペイン	85.1	19.0	中国	461.9	15.7	ルーマニア	392.7	14.4
イタリア	81.8	18.3	エジプト	361.9	12.3	スペイン	291.6	10.7
オランダ	40.9	9.1	オランダ	277.7	9.4	イタリア	236.7	8.7
エジプト	26.9	6.0	イタリア	253.0	8.6	エジプト	224.5	8.3
その他	103.5	23.2	その他	975.1	33.1	その他	1,012.4	37.2
合計	447.0	100.0	合計	2,947.0	100.0	合計	2,721.2	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は前年より 2.1%増の 294.9 百万トンとなる見込み。作付面積が 4,474 万ヘクタールと前年より 1.2%増加し、単収も 6.59 トン/ヘクタールと、前年より 0.9%増加したことによる。なお、一部地域で洪水や干ばつ、台風等の被害を受けたものの、大半では気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

なお、中国政府は、2024 年、とうもろこしの生産者向け補助金の増額等の生産者支援政策を拡大している。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、ブラジル産の輸入減見込みを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、国内のデフレ圧力により国内価格が低下し、輸入意欲が低下するとの見通しを受けて前年度より 40.2%減の 14.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～10 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 29.3%減の 1,313.6 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 615.5 万トン（46.9%）、ウクライナ 457.6 万トン（34.8%）、米国 205.6 万トン（15.7%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 10 月号」によると、10 月の国内価格は、2,200 元/トンと、新穀の供給を受けて前月（2,340 元/トン）から下落した。

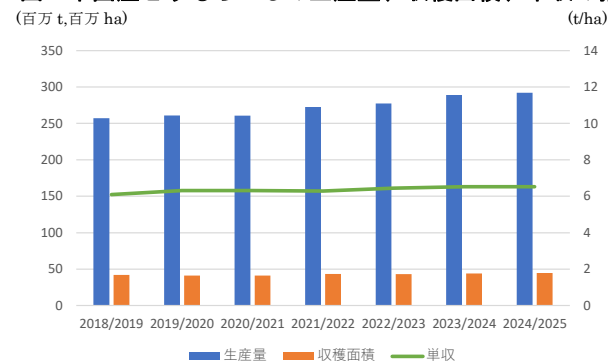
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 3.3%減の 204.3 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予 測 値 () は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生 産 量	277.2	288.8	292.0 (296.0)	-	1.1	
消 費 量	299.0	307.0	313.0 (315.2)	-	2.0	
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	18.7	23.4	14.0 (13.0)	▲ 2.0	▲ 40.2	
期末在庫量	206.0	211.3	204.3 (176.9)	▲ 2.0	▲ 3.3	
期末在庫率	68.9%	68.8%	65.3% (56.1%)	▲ 0.6	▲ 3.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.90)	-	1.1	
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.59)	-	-	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

2024年 1 月～10 月			2023年 1 月～12 月			2022年 1 月～12 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	615.5	46.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	457.6	34.8	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	205.6	15.7	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	11.6	0.9	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
南アフリカ共和国	5.6	0.4	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	10.0	0.7	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,313.6	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し>

2024/25 年度

生産量

前年度比

前月比

消費量

前年度比

前月比

輸出量

前年度比

前月比

期末在庫量

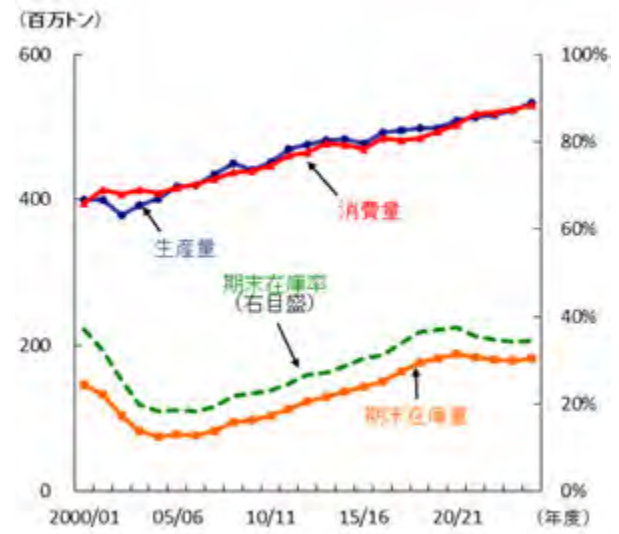
前年度比

前月比

・フィリピン、ネパール等で下方修正された。前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

・カンボジア、ネパール等で下方修正された。前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

・ミャンマー等で下方修正されたものの、カンボジア、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。



資料：USDA「PS&D」(2024. 12. 10)をもとに農林水産省にて作成

◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

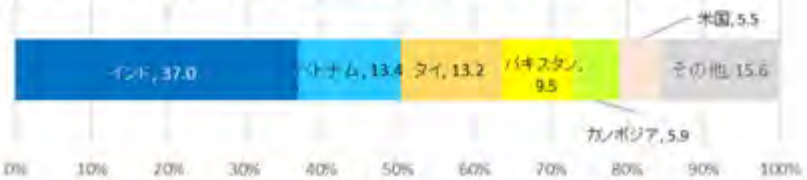
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	516.7	522.7	533.7	▲ 0.1	2.1
消 費 量	520.3	524.2	530.3	▲ 0.1	1.2
輸 出 量	55.2	56.6	58.1	1.2	2.7
輸 入 量	57.3	52.6	54.7	0.9	4.0
期末在庫量	180.6	179.1	182.5	▲ 0.2	1.9
期末在庫率	34.7%	34.2%	34.4%	▲ 0.02	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2024)

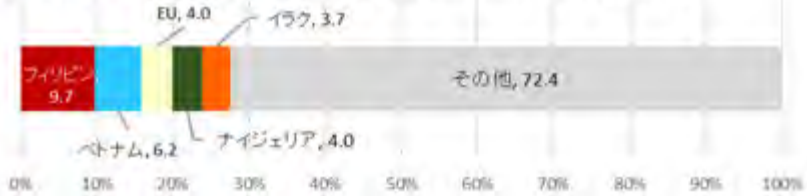
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(533.7百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(58.1百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(54.7百万トン)(単位：%)



（２） 国別のコメの需給動向

＜ タイ ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.11）によれば、2024/25 年度の雨季米（2024 年 5 月～10 月作付け）の実産量は、良好な天候から前年度に比べ 0.8%増加の 27.0 百万トン（粳ベース）の見込み。単収は増加した一方、作付面積は、前年度の 995 万ヘクタールから 994 万ヘクタールにわずかに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。11 月末、雨季米の収穫進捗率は 90%。

2023/24 年度の乾季米（2023 年 11 月～2024 年 4 月作付け）の実産量は、作付面積の減少に伴い、前年度比 9 %減の 6.2 百万トン（粳ベース）と予測されているが、2024/25 年度の実産量は、前年度比 26%増の 7.9 百万トンと予測されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、フィリピンやベトナムにおける輸入量増の予測を踏まえ、前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、前年度からは 23.0%減少し、7.7 百万トンの見込み。これはインドネシア政府の調達が前年より減少したことや、インドの輸出規制撤廃等によるものとみられる。2023/24 年度（2024 年 1 月～12 月）の輸出量は、9 月までの販売ペースが予想を上回ったこと、11 月にインドネシア向けに 0.2 百万トンの販売が決まったことを踏まえ、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 10.0 百万トンの見込み。2018 年以来の高水準となる。

タイ関税局によれば、2024 年 1～10 月の輸出量は、前年同期比 21.0%増の 840.0 万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の 105.8 万トンから 6 %増加し、111.6 万トンと輸出先国の中で最大となった。

同「Rice Outlook」（2024.12.12）によれば、過去 1 ヶ月間、タイ産米（パーボイルド米及び香り米以外）の輸出価格は、タイバーツ高や東南アジア諸国、アフリカからの強い需要により、ほとんどのグレードで 3～4 %上昇した。12月10日までの週のタイ産米（長粒、2 等精米）の輸出価格は、前月より 20ドル/トン上昇し、520ドル/トンとなった。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位: 百万精米トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年 1 月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5
消 費 量	12.3	12.3	12.3 (12.4)	▲ 0.1	-
輸 出 量	8.7	10.0	7.7 (7.6)	0.2	▲ 23.0
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-
期末在庫量	4.4	2.2	2.4 (3.3)	▲ 0.3	9.3
期末在庫率	20.7%	9.6%	11.8% (16.6%)	▲ 1.6	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5
単収(精t/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

写真 中部スパンブリー県 農家の圃場風景

(2024 年 11 月 30 日撮影)



雨季米の収穫



乾季米の圃場準備

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、7.0 百万トンと、前年度に比べ 0.7%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」（2024.12.12）によれば、種類別の生産量は、長粒種が 5.3 百万トンと前年度より 8%増加するものの、中・短粒種は、南部の生産州及びカリフォルニア州における収穫面積の減少を受け 1.7 百万トンと前年度より 18%減少する見込み。

【貿易情報・その他】同「Rice Outlook」（2024.12.12）によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

長粒種の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.5%増の 1.2 百万トンと史上最高の見込み。中・短粒種の輸入量は、前月予測から変更はなく 0.2 百万トンとなる見込みであり、引き続き中国、タイ、インド、イタリアからの輸入が継続する見込み。このうち、中国からの輸入のほぼ全部が米国領プエルトリコ向けである。

同「Rice Outlook」（2024.12.12）によれば、2024/25 年度の輸出量は、3.2 百万トンと前月予測から変更はないものの、種類別では、長粒種は、輸出先第 1 位のメキシコ向けの輸出が 2.0 百万トン下方修正、中・短粒種は東アジア向けの輸出が 2.0 百万トン上方修正された。なお、輸出余力の増加から、前年度に比べ 1.9%増加し、2016/17 年度以降最高となる見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」（2024.12.10）によれば、2019 年にハイチが輸入するコメの 95%を米国が供給していたが、2023 年に米国産長粒種の生産量の減少による価格の高騰と、同年 1 月のパキスタン・ルピーの切り下げを受けて、ハイチの輸入業者はパキスタンからコメの輸入を開始している。2024 年、米国産シェアは 71%に減少している。

同「Exports Sales Query System」（2024.11）によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の輸出量は 327.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン（国別シェア 27.7%）、ハイチ 34.5 万トン（同 10.5%）、日本 29.6 万トン（同 9.0%）の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ 18.4%増加し、1.5 百万トンの見込み。

コメー米国

長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8 月～25年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.1	6.9	7.0	-	0.7
消 費 量	4.6	4.9	5.1	-	2.2
輸 出 量	2.1	3.1	3.2	-	1.9
輸 入 量	1.3	1.4	1.5	-	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	-	18.4
期末在庫率	14.4%	15.5%	18.0%	-	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(穀t/ha)	8.28	8.57	8.51	-	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（10 December 2024）

図 米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」（2024.12.12）をもとに農林水産省で作成。
価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。政府の最低支持価格の上昇を受け、収穫面積はわずかに増加する見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、207.5 百万トン（粳ベース）と、作付面積（前年度比 0.2%増）及び単収の増加（同 0.3%増）から、前年度に比べ 0.5%増の見込み。

全国農業気象月報（2024.12.5）によれば、華南地区西部（福建省、広東省）では、晩稲の生育状況は、日照及び気温条件は良好だったが、収穫期に台風 22 号「銀杏（インシン）」等に見舞われ、収穫作業に悪影響を与えた。なお、収穫作業はほぼ終了している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく 145.7 百万トン。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.6%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 11.1%増の 1.7 百万トンの見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 10 月号」によれば、10 月のコメ輸入量は、国際的なコメ価格の下落により、中国国内外の価格差が縮小したことを受け、前月に比べ 3.11 万トン増加し、11.57 万トン（前月比 36.81%増）。

中国海関統計によれば、2024 年 1～10 月の輸入量は 107.9 万トン（前年同期 52%減）。

USDA によれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比 38.7%減の 1.0 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0	
消 費 量	155.0	148.1	145.7 (145.2)	-	▲ 1.6	
輸 出 量	1.7	1.6	1.0 (1.6)	-	▲ 38.7	
輸 入 量	4.4	1.5	1.7 (2.4)	-	11.1	
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (102.1)	-	1.0	
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.9% (69.5%)	-	2.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.00)	-	0.2	
単収(粳t/ha)	7.08	7.14	7.19 (5.00)	-	0.7	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」 (10 December 2024) IGC 「Grain Market Report」 (21 November 2024) (単収は精米t/ha)						

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2004/05～2024/25 年度)



資料：USDA 「PS&D」 (2024. 12. 10) をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、145.0 百万トンと、前年度比で 5.2%増加、過去 5 年平均（129.2 百万トン）と比べ 12.3%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、前月予測から変更はなく、50.0 百万ヘクタールと前年度に比べ 4.5%増加し史上最高となる見込み。単収も、4.35 トン/ヘクタールと、前年度（4.32 トン/ヘクタール）と比べ 0.7%増と史上最高となる見込み。

インド政府（2024.9.30）によると、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付けがシフトしており、カリフ米の作付面積は前年度から 2.5%増加し 41.45 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、121.0 百万トン。旺盛な国内需要から前年度比 4.0%増となる見込み。

なお、国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、インド政府の実産規制撤廃等を受け、前年度比 49.0%増の 21.5 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 37%を占める。

2023/ 24 年度の実産量は、前月予測から変更はなく 14.4 百万トンと、前年度比 29.1%減。

インド輸出入統計によれば、2023 年 10 月から 2024 年 9 月までの輸出量は 14.5 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア 136.7 万トン（国別シェア 9.4%）、ベナン 125.0 万トン（同 8.6%）、イラク 90.2 万トン（同 6.2%）の順。サウジアラビア等の中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。

インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化してきたが、国内における史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、2023 年 8 月 27 日より導入したバスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また、9 月 27 日には、粳米、玄米、パーボイルド米の実産関税を 20%から 10%への引き下げを発表。更に、9 月 28 日には、昨年 7 月から禁止していた非バスマティ米の実産禁止措置を撤廃し、最低輸出価格を導入したものの、10 月 23 日に撤廃を発表した。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、10 月時点での期末在庫量は、31.06 百万トン（精米）と前年に比べ 40%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年 9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	135.8	137.8	145.0 (144.5)	-	5.2	
消 費 量	114.5	116.4	121.0 (121.0)	-	4.0	
輸 出 量	20.3	14.4	21.5 (21.1)	-	49.0	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	35.0	42.0	44.5 (44.1)	-	6.0	
期末在庫率	26.0%	32.1%	31.2% (31.0%)	-	▲ 0.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	50.00 (50.00)	-	4.5	
単収(粍t/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.89)	-	0.7	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)（単収は精米t/ha）

表 インドのコメ輸出規制(2024 年 10 月 23 日時点)

対象品目	措置内容
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出関税 (10%)
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	輸出関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出再開
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

＜ ベトナム ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.8%上回る見込み。2016/17 年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にあったが、2024/25 年度の実収面積は 6.95 百万ヘクタールと昨年と比べ 0.7%増。2023/24 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、26.3 百万トンと前年度に比べ 0.8 百万トン減少する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.11）によると、紅河デルタ地域（北部）では、0.99 百万ヘクタールのうち 0.76 百万ヘクタールの夏秋作（雨季米）が収穫期を迎えている。単収は 5.36 トン/ヘクタールと、台風 11 号「ヤギ」の影響で、昨年と比べ 1.9%減少する見込み。メコンデルタ地域（南部）では、秋冬作（雨季米）が収穫段階にあり、総実収面積は 0.49 百万ヘクタールで、温暖な天候と灌漑整備の良さから、単収は、昨年より 3.3%増の 5.8 トン/ヘクタールの見込み。

ベトナム総統計局（2024.12.12）によると、11 月 20 日時点で早期雨季作（ムア米）は、1.4 百万ヘクタールで収穫が行われ、作付面積の 90.7%が完了し、前年同期（95.7%）を下回っている。台風 11 号「ヤギ」の影響で、収穫作業に支障が出たため。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2024.12.12）によれば、2024/25 年度の実輸入量は、カンボジアからの輸入が予測を上回ったことから、前月予測より 0.3 百万トン上方修正され、3.4 百万トンとなる見込み。ベトナムのコメ輸入の大部分をカンボジアが占めており、カンボジアで精米されたほとんどがベトナム向けに出荷されている。また、残りについてはインドから輸入している。

USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、引き続きフィリピンへの輸出の増加が見込まれることから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正された。一方、世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等をしたことにより、同国との競争激化が予想され、前年度に比べ 13.3%減少し、7.8 百万トンとなる見込み。ベトナム税関総局によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 8.5 百万トンと、前年同期（7.6 百万トン）に比べ 10.6%増加。主な輸出先国は、フィリピン 4.0 百万トン（国別シェア 47.4%）、インドネシア 1.1 百万トン（同 13.4%）、マレーシア 0.7 百万トン（同 8.3%）、ガーナ 0.6 百万トン（同 6.8%）の順。

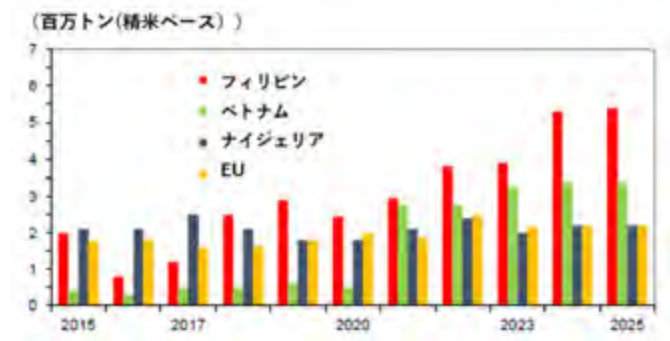
コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25 年 1 月～25 年 12 月)		
			予 測 値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.1	26.3	26.5 (28.6)	-	0.8
消 費 量	22.4	22.4	22.3 (22.7)	-	▲ 0.3
輸 出 量	8.2	9.0	7.8 (7.3)	0.5	▲ 13.3
輸 入 量	3.3	3.4	3.4 (2.2)	0.3	-
期末在庫量	3.4	1.7	1.5 (3.1)	-	▲ 13.2
期末在庫率	11.0%	5.3%	4.8% (10.2%)	▲ 0.1	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.12	6.90	6.95 (7.12)	-	0.7
単収(kg/ha)	6.10	6.10	6.10 (4.02)	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)、
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024)（単収は精米t/ha）

図 世界における主要コメ輸入国（ベトナムは、フィリピンに次ぐ世界第 2 位のコメ輸入国）



II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン、ボリビア、カナダ等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

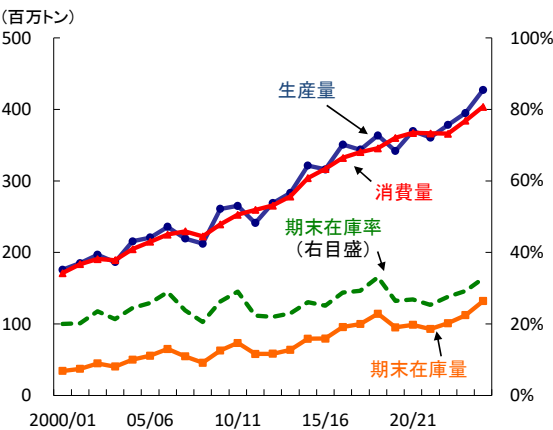
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン、ボリビア、アルジェリア等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出货量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・カナダ、ボリビア等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省で作成

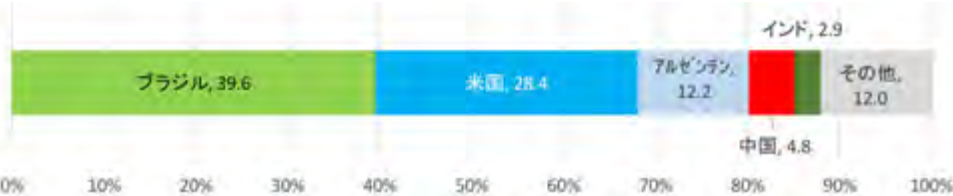
◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

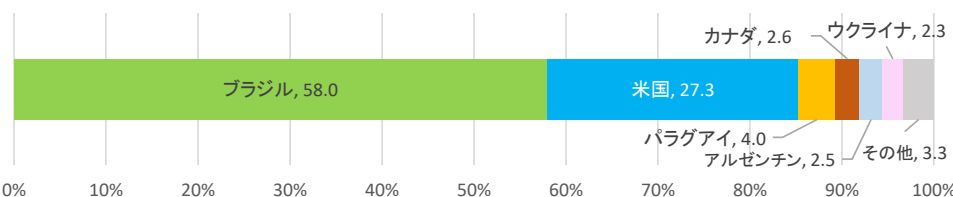
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.2	394.9	427.1	1.7	8.2
消費量	366.1	384.0	403.6	1.4	5.1
うち搾油用	315.0	330.9	347.4	1.3	5.0
輸 出 量	171.8	177.5	182.0	0.3	2.5
輸 入 量	167.9	177.7	178.2	0.3	0.3
期末在庫量	101.1	112.2	131.9	0.1	17.6
期末在庫率	27.6%	29.2%	32.7%	▲ 0.1	3.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2024)

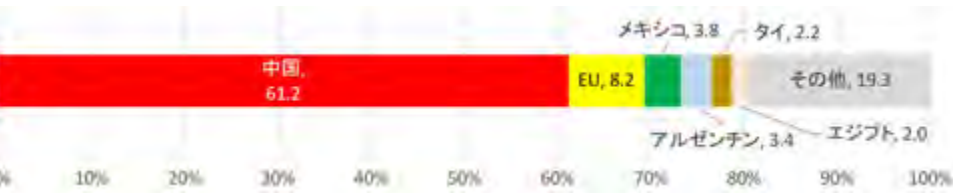
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量(427.1 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出货量(182.0 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量(178.2 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度から 7.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 7.2%増の 121.4 百万トンと史上 2 番目の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、大豆油等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.7%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

USDA 「Oil Crops Outlook」(2024.12.12) によれば、パーム油の価格高騰により相対的に大豆油の価格競争力が高まっており、2024/25 年度の大豆油の輸出量は前年度より 78.2% (0.2 百万トン) 増の 0.5 百万トンの見込み。2023/24 年度の米国バイオマス燃料生産向けの大豆油の消費量も前年度より 4.0% (0.2 百万トン) 増の 5.9 百万トンの見込み。豊作となった大豆の供給を受けて大豆及び大豆粕の価格が低下する一方、大豆油の価格は横ばいであり、搾油における大豆油の収益の重要性が増しているとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.12.10) によれば、米国的大豆価格は、12 月 4 日現在、新穀の収穫進展を受けて前月から 18 ドル/トン下落し 396 ドル/トンと、新穀の収穫前で供給量が減少するブラジル産 (406 ドル/トン) 及びアルゼンチン産 (409 ドル/トン) を下回っている。なお、USDA によれば、2024 年 9～11 月の輸出量は 2,179.3 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 1,854.3 万トンより 18%増。内訳は中国 1,270.6 万トン (国別シェア 58.3%)、メキシコ 144.3 万トン (同 6.6%)、イタリア 113.0 万トン (同 5.2%) の順となっている。

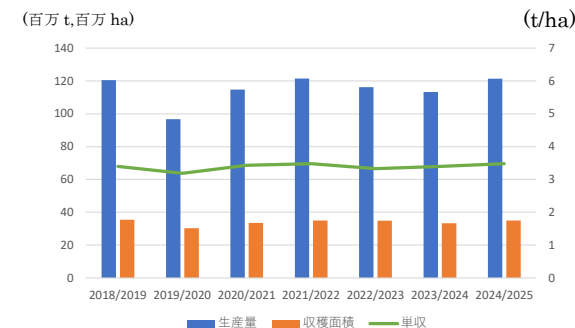
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 37.5%増の 12.8 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 10.8%と、過去 5 年平均 (8.0%) を上回り、2019/20 年度以来 5 年ぶりに 10%台まで回復する見通し。

大豆－米国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 9 月～25年 8 月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	121.4	-	7.2
消費量	63.3	65.6	68.7	-	4.7
うち搾油用	60.2	62.2	65.6	-	5.4
輸出量	53.9	46.1	49.7	-	7.7
輸入量	0.7	0.6	0.4	-	▲ 28.1
期末在庫量	7.2	9.3	12.8	-	37.5
期末在庫率	6.1%	8.3%	10.8%	-	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.91	-	4.9
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.48	-	2.4

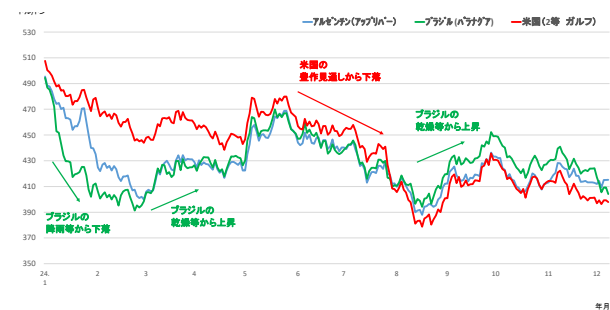
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)

図 1 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

図 2 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2024.12.12）によれば、2024/25 年度の実産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受けて前年度より 12.5%増の 166.2 百万トンの見通し。12 月上旬時点の作付進捗率は 90%と、11 月に作付作業が大きく進展し、前年同期の 83%を上回っている。12 月 1 日 1 月上旬、主要生産州のマット・グロッソ州において、作付作業はほぼ完了。温暖で降雨があり、作付や発芽に有利に働いたとみられる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.12.10) によれば、12 月上旬、降雨があり、大豆の生育に好影響を与えているとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度から搾油用需要が減少することを受けて前年度より 0.8%減の 58.1 百万トンとなるも、過去 5 年平均（53.9 百万トン）より 7.8%増と引き続き高水準を維持する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 96.8 百万トンで、前年同期（98.0 百万トン）に比べ 1.2%減となるも、中国向け輸出は引き続き堅調に推移している。輸出先は、中国 71.1 百万トン（国別シェア 73.4%）、スペイン 4.2 百万トン（同 4.3%）、タイ 3.2 百万トン（同 3.3%）の順。

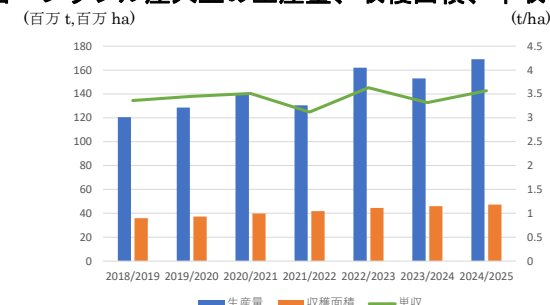
報道情報（2024.12.9）によれば、12 月上旬、アマゾン川南部の 2 つの主要な支流（タパジヨス川、マデイラ川）において、降雨による水位の回復を受けて、数カ月間停止されていたはしけへの穀物等の積み込み作業が再開された。ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されており、2023 年 6 月、北部マラニョン州イタキ港と南部サンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているものの、商社等の情報によれば、アマゾン川経由での北部港からの輸出は主に EU、エジプト向けのため、アマゾン川の水位低下による我が国向け輸出への影響は小さいとみられる。

大豆－ブラジル

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	162.0	153.0	169.0 (166.2)	-	10.5
消 費 量	57.2	58.6	58.1 (60.2)	-	▲ 0.8
うち搾油用	53.4	54.7	54.0 …	-	▲ 1.3
輸 出 量	95.5	104.2	105.5 (105.5)	-	1.3
輸 入 量	0.2	0.9	0.2 (0.5)	-	▲ 82.8
期末在庫量	36.8	28.0	33.5 (3.0)	0.01	19.8
期末在庫率	24.1%	17.2%	20.5% (1.8%)	0.01	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.60	46.10	47.30 (47.37)	-	2.6
単収(t/ha)	3.63	3.32	3.57 (3.51)	-	7.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
CONAB 「Graos」(12 December 2024)

図 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 中西部マット・グロッソ州の大豆の圃場風景 (2024 年 12 月 1 日撮影)



当圃場の作付作業は 10 月 6 日に行われ、現在の生育ステージは開花期～乳熟期にある。作柄は良く、雑草・病害虫の防除は適切に行われている。

撮影者：Rafael Rohenkohl

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2024.12.19）によれば、2024/25 年度の生産量は、カナダ統計局による穀物生産に係る農家調査結果を受けて前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度（7.0 百万トン）から 8.4%増の 7.6 百万トンの見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」（2024.12.5）によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の生産量は、前年度に比べ 7.9%増の 4.4 百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加する（対前年度比 7.0%増）ことが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では、収穫面積は減少（同 10.9%減）したものの、生育後期の良好な生育条件から単収が大きく増加（同 21.5%増）したことを受け前年度より 8.3%増の 1.7 百万トン、ケベック州では収穫面積（同 3.4%増）、単収（同 5.8%増）ともに増加し、前年度より 9.3%増の 1.4 百万トンの見込み。ケベック州西部においても平年以上の降雨と夏の温暖な気候を受けて単収が向上したとみられる。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要の増加により前年度（2.2 百万トン）から 11.4%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、供給増を受けて前年度（4.9 百万トン）より 12.3%増の 5.5 百万トンと史上 2 番目の高水準となる見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25 年度（2024 年 8～10 月）の輸出量は 89.8 万トンで、前年同期（61.9 万トン）を上回っている。国別では、中国 17.9 万トン（19.9%）、アルジェリア 12.1 万トン（13.5%）、バングラデシュ 11.6 万トン（12.9%）の順となっている。

なお、カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部であるものの、通常日本向けは鉄道を利用して太平洋岸のバンクーバーを経由して輸出されるルートとなっている。

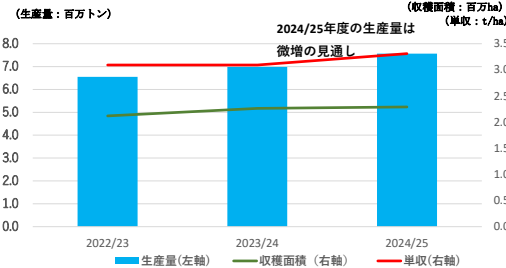
AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度から 6.6%増の 0.6 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.5	7.0	7.6 (7.6)	0.4	8.4
消 費 量	2.7	2.3	2.9 (2.5)	-	25.1
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	5.9
輸 出 量	4.2	4.8	4.8 (5.5)	0.2	▲ 0.9
輸 入 量	0.5	0.3	0.4 (0.5)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.8 (0.6)	0.2	47.6
期末在庫率	5.3%	7.9%	10.9% (7.5%)	2.0	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.29 (2.29)	▲ 0.01	1.3
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.30 (3.31)	0.17	6.8

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」(10 December 2024)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 December 2024)

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」
(2024.12.19) をもとに農林水産省にて作成

表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

2024年 8月～10月			2023/24年度 (2023年 8月～2024年 7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	17.9	19.9	中国	143.9	41.4
アルジェリア	12.1	13.5	アルジェリア	62.6	18.0
バングラデシュ	11.6	12.9	イラン	54.6	15.7
イタリア	11.2	12.5	オランダ	18.5	5.3
その他	37.0	41.2	その他	67.9	19.5
計	89.8	100.0	計	347.5	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省
にて作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、前年から 0.9%減の 20.7 百万トンとなる見込み。単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、作付面積は 10.34 百万ヘクタールと前年より 1.4%減少することによる。

中国政府は、2024 年、大豆生産の安定化に向け、大豆生産者への補助金の増額等の政策による生産者支援を拡大している。一部地域で洪水や干ばつ等の被害を受けたものの、大半で気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 7.2%増の 112.0 百万トンとなる見込み。なお、中国海関統計によれば、2024 年 1～10 月の輸入量は、前年同期より 11.2%増の 8,994.0 万トン。内訳は、ブラジル 6,777.4 万トン（75.4%）、米国 1,508.8 万トン（16.8%）、アルゼンチン 359.5 万トン（4.0%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 10 月号」によると、10 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（3,880 元/トン）から小幅に下落し、3,820 元/トン。10 月の国内価格は、新穀の供給を受け、4,380 元/トンと前月（5,100 元/トン）から下落した。

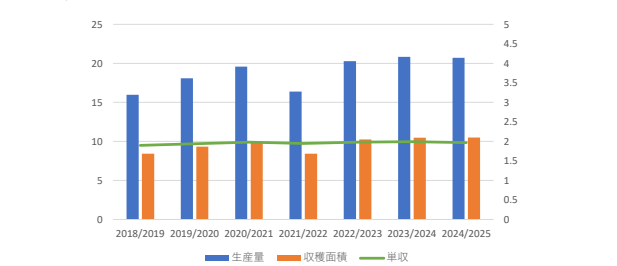
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.2%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。

大豆－中国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.3	20.8	20.7 (20.1)	-	▲ 0.7
消 費 量	117.5	121.8	126.9 (127.8)	-	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.8)	-	4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
輸 入 量	104.5	112.0	109.0 (108.5)	-	▲ 2.7
期末在庫量	32.3	43.3	46.0 (46.9)	-	6.2
期末在庫率	27.5%	35.5%	36.2% (36.7%)	-	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50 (10.16)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.97)	-	▲ 1.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 December 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (21 November 2024)

図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t,百万 ha) (t/ha)



資料：USDA 「PS&D」 (2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

2024年 1 月～10月			2023年 1 月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	6,777.4	75.4	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1,508.8	16.8	米国	2,374.3	24.0
アルゼンチン	359.5	4.0	アルゼンチン	199.2	2.0
ウルグアイ	105.3	1.2	カナダ	146.6	1.5
カナダ	100.3	1.1	ロシア	129.3	1.3
ウクライナ	61.5	0.7	南アフリカ	14.7	0.1
その他	81.1	0.8	その他	38.6	0.4
計	8,994.0	100.0	計	9,895.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 7.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度から 7.9%増の 52.0 百万トンの見込み。増産の主な要因は、大豆の収益性が高まっていることに加え、農家が病害虫のヨコバイによる被害懸念からとうもろこしの作付けを減少させ、大豆に作付けをシフトさせることによる。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.12.10)によれば、12月上旬、降雨があり、生育に好影響を与えたとみられる。12月5日現在、作付進捗率は54%と、前年同期(55%)を下回っている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 11.0%増の 48.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1～10 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 490.0 万トンで前年同期(172.4 万トン)の 2.8 倍。輸出先は、中国 391.9 万トン(国別シェア 80.0%)、米国 10.9 万トン(同 2.2%)、チリ 4.9 万トン(同 1.0%)の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。

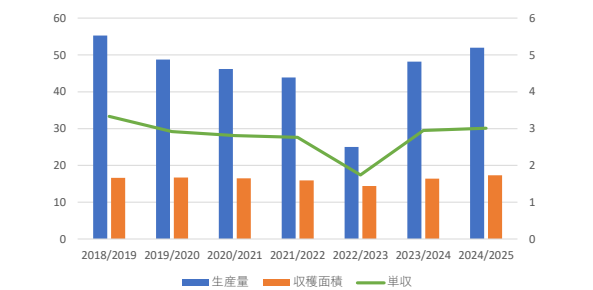
アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

大豆－アルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	(単位:百万トン)			
			2024/25 (24年10月～25年9月)		2024/25 (24年10月～25年9月)	
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生 産 量	25.0	48.2	52.0 (51.5)	1.0	7.9	
消 費 量	36.6	43.8	48.6 (48.9)	1.0	11.0	
うち搾油用	30.3	36.6	41.0 (42.4)	1.0	12.2	
輸 出 量	4.2	5.1	4.5 (5.7)	-	▲ 11.9	
輸 入 量	9.1	7.8	6.0 (5.7)	-	▲ 23.0	
期末在庫量	17.0	24.1	29.0 (12.6)	-	20.3	
期末在庫率	41.7%	49.2%	54.6% (23.2%)	▲ 1.0	5.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.37	17.30 (17.00)	0.40	5.7	
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.01 (3.03)	▲ 0.01	2.0	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2024)、
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料: USDA「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2024 年 11 月 23 日撮影)



本圃場では大豆の作付作業が行われている。
収穫作業は 2025 年 4 月を予定。

撮影者: José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2024/25年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

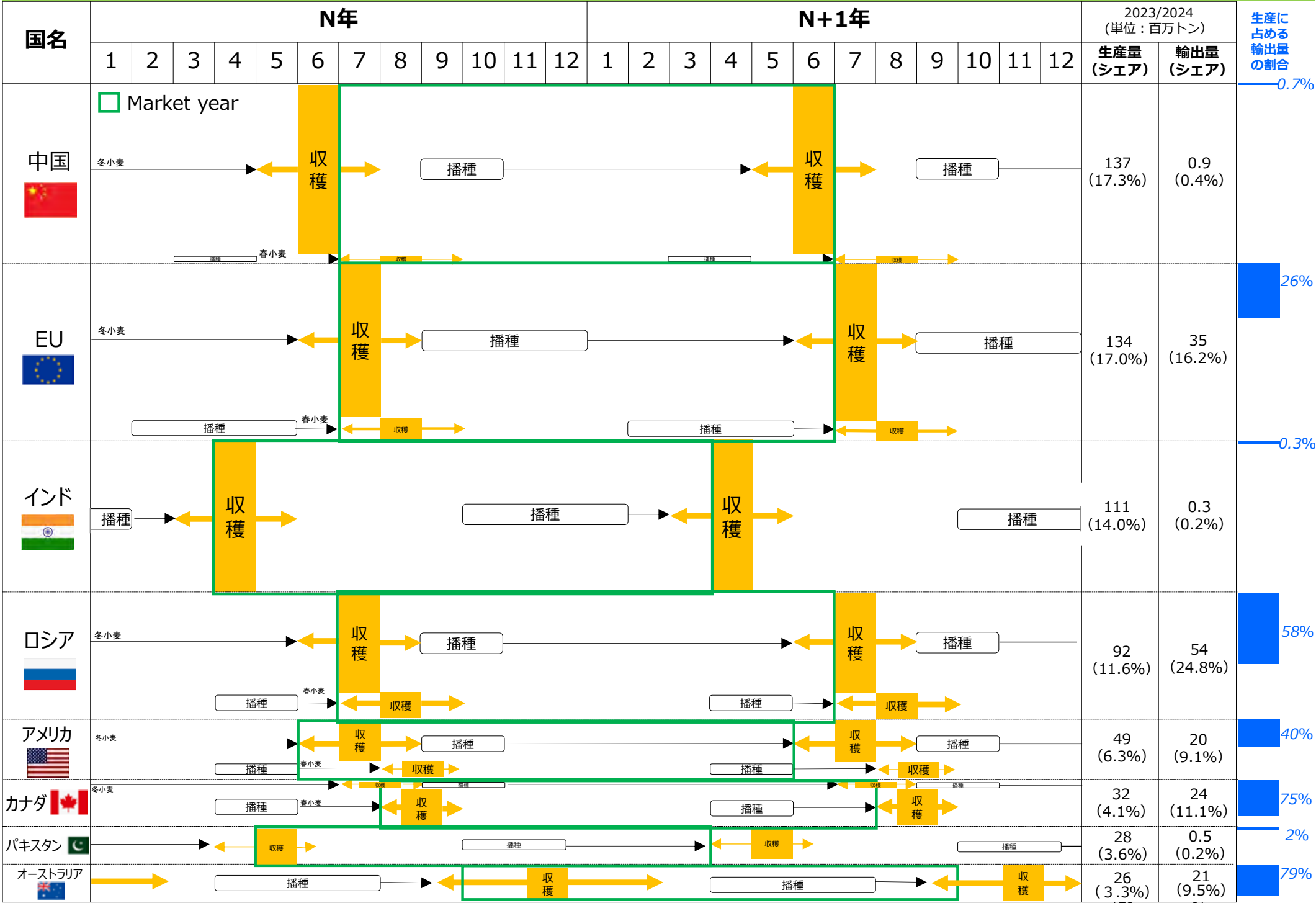
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他：

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他： 122 (23.5%) 19 (36.1%)

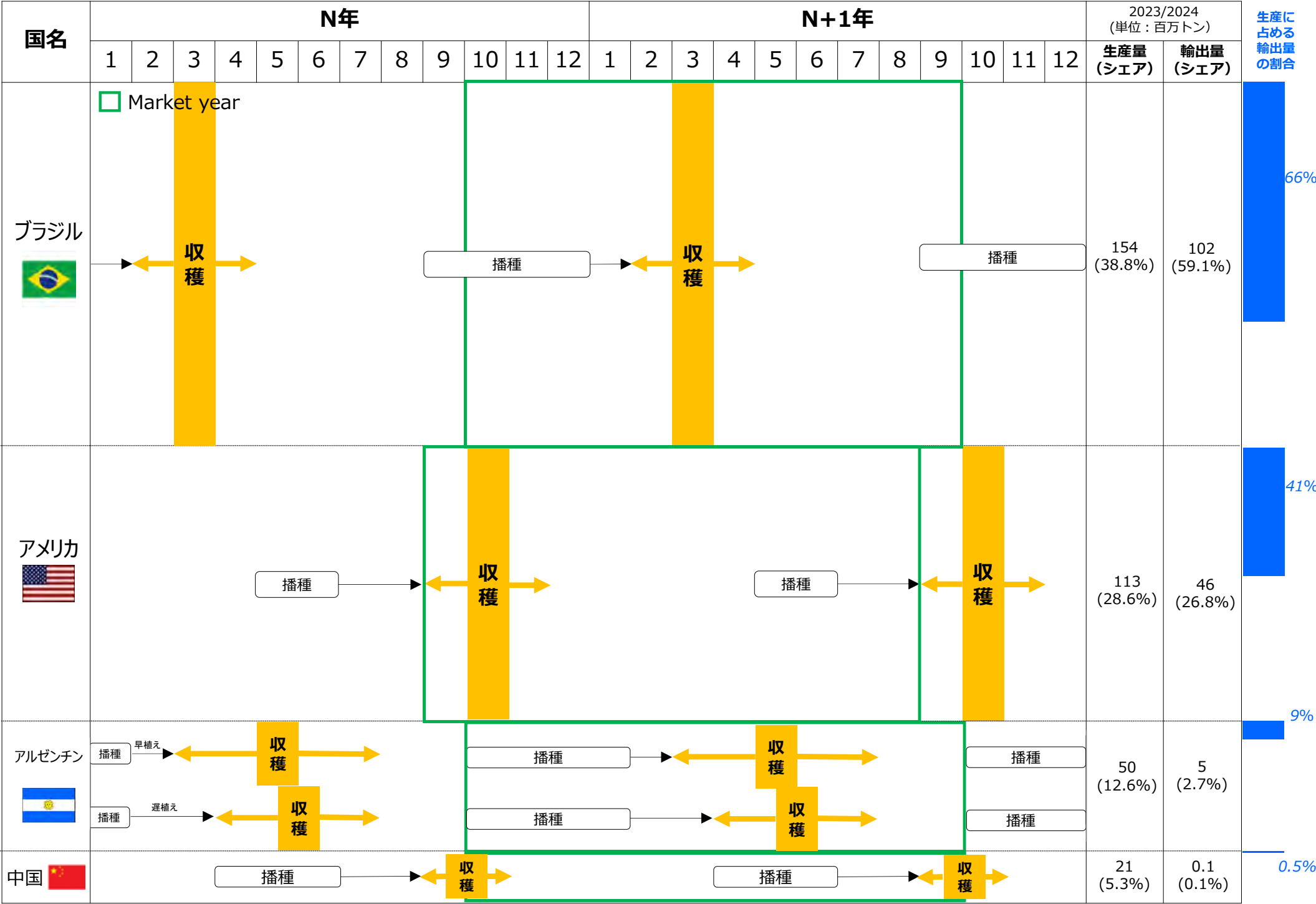
主要生産国のクロップカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
アメリカ 	□ Market year								播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%				
中国 	播種 → 春作 → 収穫												播種 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%
ブラジル 	夏とうもろこし → 播種 → 収穫												播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%
EU 	播種 → 冬とうもろこし → 播種 → 収穫												播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%
アルゼンチン 	播種 → 収穫												播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫												雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：59 (14.8%) 20 (11.3%)

主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)			
EU 	□ Market year						収穫											収穫							20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%		
カナダ 							播種	収穫											播種	収穫							19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%
中国 							収穫							播種	収穫							播種	15 (17.4%)	0 (0%)	0%				
インド 							収穫							播種	収穫							播種	13 (14.1%)	0 (0%)	0%				
オーストラリア 							播種	収穫							播種	収穫							6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%				
ウクライナ 							収穫	播種											収穫	播種							4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%
ロシア 							播種	収穫							播種	収穫							4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%				

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2024 年 12 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2024/25 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html